

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成28年3月】

■調査概要（データ対象期間：平成28年3月1日～3月31日）

- 調査期間：平成28年3月29日～4月21日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業24企業、製造業21企業、卸売業15企業、小売業33企業
飲食業15企業、サービス44企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計152企業>
- 調査項目：3月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が縮小

1. 業況判断

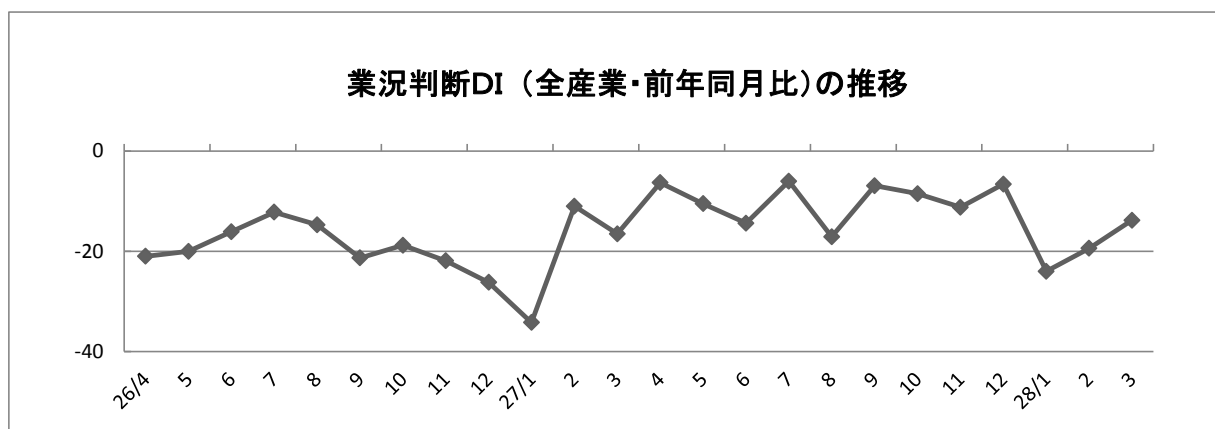
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲19.4）よりマイナス幅が5.6ポイント縮小し、▲13.8となった。業種別では、建設業、小売業、飲食業はマイナス幅が縮小し、製造業は同水準だった。サービス業、卸売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲28.7）よりマイナス幅が15.5ポイント縮小し、▲13.2となった。業種別では、製造業、飲食業はマイナスから0となった。卸売業、建設業、小売業はマイナス幅が縮小した。サービス業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.5 (13.3)	57.2 (54.0)	28.3 (32.7)	↗ ▲13.8 (▲19.4)	18.4 (10.0)	50.0 (51.3)	31.6 (38.7)	↗ ▲13.2 (▲28.7)
建設業	4.2 (4.0)	58.3 (56.0)	37.5 (40.0)	↗ ▲33.3 (▲36.0)	4.2 (0.0)	58.3 (56.0)	37.5 (44.0)	↗ ▲33.3 (▲44.0)
製造業	23.8 (23.8)	42.9 (42.9)	33.3 (33.3)	→ ▲9.5 (▲9.5)	33.3 (14.3)	33.4 (52.4)	33.3 (33.3)	↗ 0.0 (▲19.0)
卸売業	13.3 (6.3)	66.7 (87.4)	20.0 (6.3)	↘ ▲6.7 (0.0)	13.3 (0.0)	60.0 (81.2)	26.7 (18.8)	↗ ▲13.4 (▲18.8)
小売業	15.2 (15.6)	57.5 (37.5)	27.3 (46.9)	↗ ▲12.1 (▲31.3)	24.2 (18.8)	42.5 (24.9)	33.3 (56.3)	↗ ▲9.1 (▲37.5)
飲食業	13.3 (0.0)	60.0 (53.8)	26.7 (46.2)	↗ ▲13.4 (▲46.2)	20.0 (0.0)	60.0 (46.2)	20.0 (53.8)	↗ 0.0 (▲53.8)
サービス業	15.9 (18.6)	59.1 (58.1)	25.0 (23.3)	↘ ▲9.1 (▲4.7)	15.9 (14.0)	52.3 (58.1)	31.8 (27.9)	↘ ▲15.9 (▲13.9)

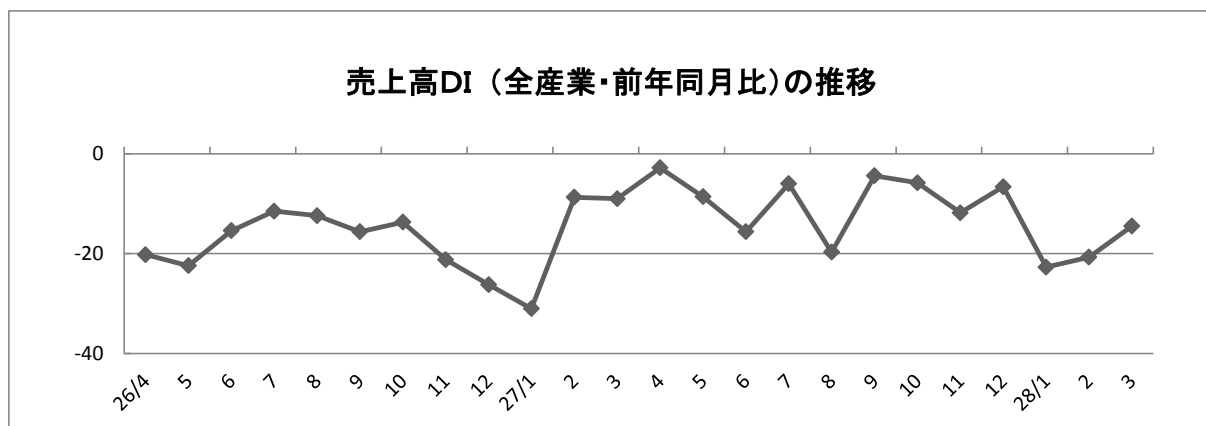
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲20.7）よりマイナス幅が6.2ポイント縮小し、▲14.5となった。業種別に見ると、製造業、建設業、小売業、飲食業はマイナス幅が縮小した。サービス業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

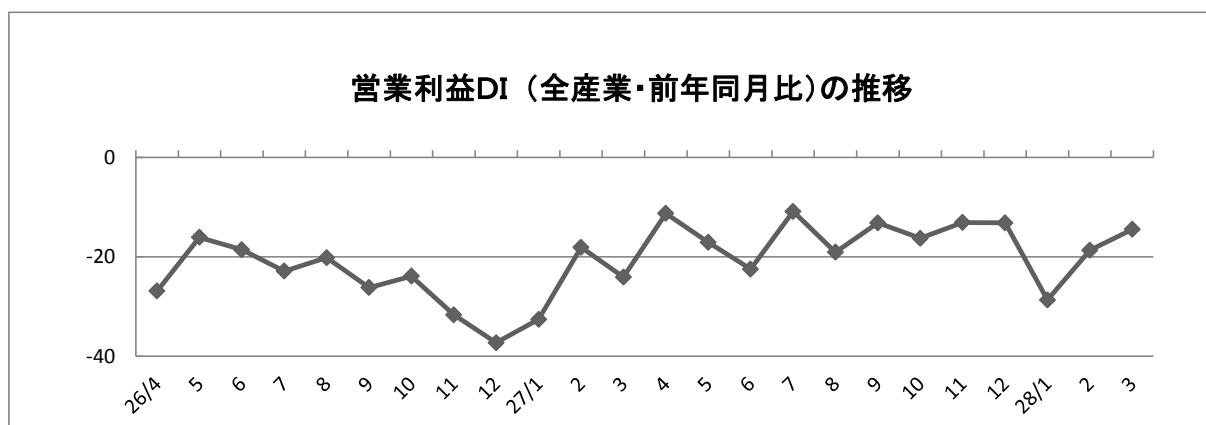


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
全 体	▲9.0	▲2.8	▲8.6	▲15.6	▲6.0	▲19.7	▲4.4	▲5.8	▲11.8	▲6.6	▲22.7	▲20.7	▲14.5
建設業	▲6.2	▲15.0	▲16.0	▲12.5	▲30.4	▲40.0	▲25.0	▲4.0	▲20.9	▲16.0	▲24.0	▲32.0	▲16.7
製造業	▲25.0	5.0	0.0	▲13.7	15.0	0.0	8.3	▲40.0	35.0	0.0	▲20.8	▲19.1	▲9.5
卸売業	▲26.7	0.0	▲25.0	▲18.8	▲11.7	▲11.8	5.9	▲6.6	▲18.7	▲21.5	▲28.6	▲6.2	▲13.3
小売業	▲16.6	▲21.2	▲20.0	▲27.0	▲18.0	▲25.0	▲15.1	▲18.1	▲25.0	▲12.5	▲43.7	▲34.3	▲18.1
飲食業	8.3	▲8.4	6.7	▲7.1	▲12.5	▲11.1	0.0	7.2	▲28.6	▲6.2	▲6.2	▲38.5	▲20.0
サービス業	5.0	14.7	0.0	▲10.6	10.0	▲20.4	2.2	13.1	▲9.5	4.3	▲10.3	▲4.7	▲11.4

3. 営業利益DI（前年同月比）

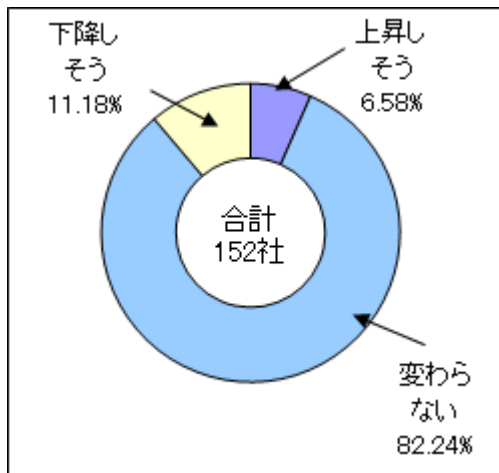
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲18.7）よりマイナス幅が4.2ポイント縮小し、▲14.5となった。業種別に見ると、卸売業はプラス幅が縮小した。製造業、小売業、建設業、飲食業はマイナス幅が縮小し、サービス業はマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

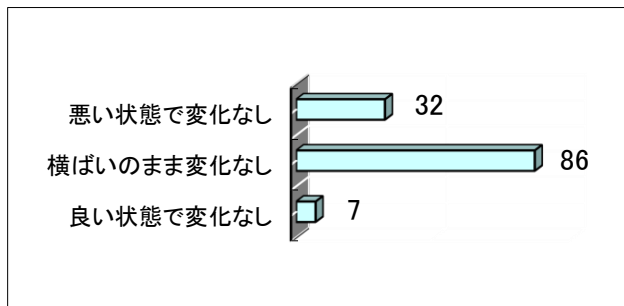
	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
全 体	▲24.1	▲11.3	▲17.1	▲22.5	▲10.9	▲19.1	▲13.2	▲16.3	▲13.1	▲13.2	▲28.7	▲18.7	▲14.5
建設業	▲25.0	▲20.0	▲32.0	▲33.3	▲39.2	▲32.0	▲33.3	▲36.0	▲20.8	▲32.0	▲40.0	▲48.0	▲29.1
製造業	▲45.0	▲10.0	▲30.4	▲31.9	15.0	▲17.4	0.0	▲30.0	20.0	▲5.3	▲25.0	▲9.6	▲9.5
卸売業	▲40.0	▲6.2	▲18.7	▲6.3	5.8	▲11.8	17.6	0.0	0.0	▲14.3	▲28.6	31.3	13.3
小売業	▲30.0	▲39.4	▲17.1	▲29.7	▲20.5	▲19.4	▲24.2	▲42.4	▲30.6	▲9.4	▲34.3	▲34.4	▲18.1
飲食業	0.0	▲16.7	▲6.7	▲7.1	▲31.2	▲11.1	▲11.8	0.0	▲28.6	▲25.0	▲31.2	▲46.2	▲20.0
サービス業	▲10.0	14.6	▲6.1	▲17.1	0.0	▲18.1	▲13.7	8.7	▲9.5	▲4.3	▲17.9	▲4.6	▲13.7

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



○平成28年4月～平成28年6月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ3.42ポイント減少し6.58%、「下降しそう」が5.85ポイント増加し11.18%となった。業種別の見通しDIは建設業(0.0)、製造業(▲33.3)、卸売業(0.0)、小売業(6.1)、飲食業(▲6.6)、サービス業(▲2.3)であった。

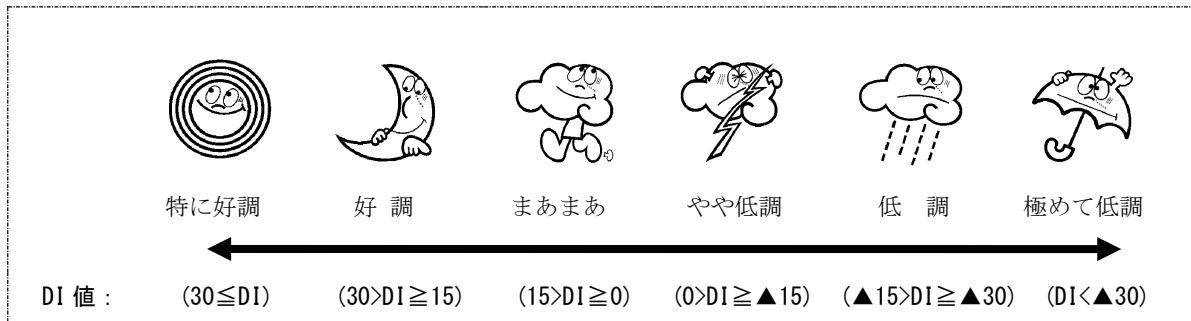
➡「上昇しそう」では、「季節的要因のため」(建設業)、「少しずつ受注が増加するため」(製造業)、「GW、クラフトフェア等人出があるため」「時期的要因のため」「需要が見込めるため」(小売業)、「GW、修学旅行等があるため」(飲食業)、「4月、5月の予約状況は好調のため」「新入社員の研修会があるため」「暖かくなってくるため」(サービス業)といった声が寄せられた。



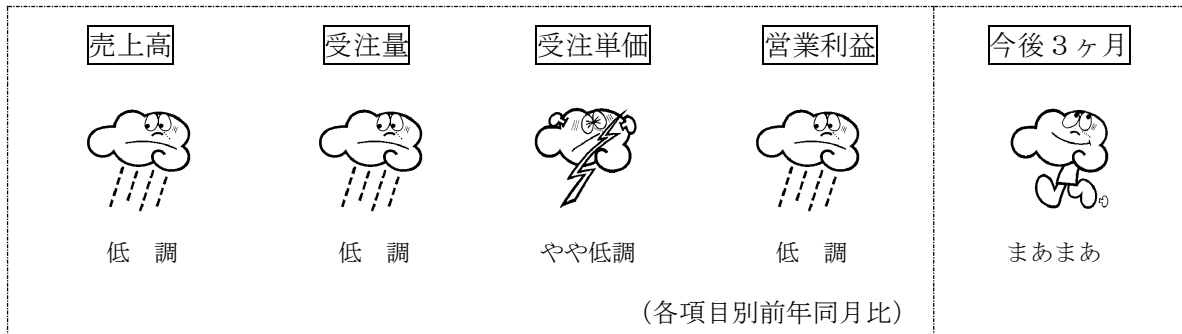
➡「下降しそう」では、「公共工事の発注がないため」「年度末の追い込みは3月だが例年より落ち込むため」(建設業)、「景気の動向が不透明のため」「材料業者等の情報が下降傾向のため」「受注の減少のため」(製造業)、「季節的要因のため」(小売業)、「例年4月、5月は下降するため」(飲食業)、「業界全体は3月が非常に忙しいため」「現状で回収見込みのプロジェクトがないため」「平成28年度の求職者支援訓練応募者数減少のため」「3月はホテル特別イベント開催及び、婚礼件数が多かったため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



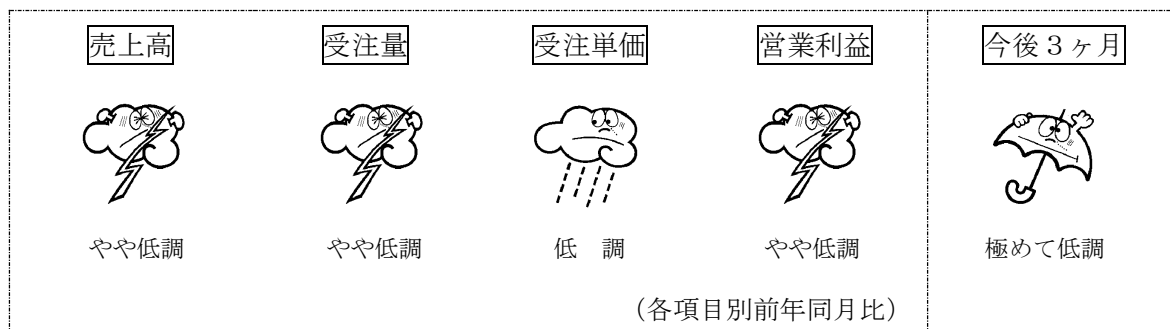
【項目別DIの推移】

	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
売上高	▲ 6.2	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 30.4	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 4.0	▲ 20.9	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7
受注量	▲ 18.8	▲ 15.0	▲ 12.0	▲ 20.8	▲ 34.8	▲ 36.0	▲ 54.2	▲ 16.0	▲ 29.2	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 16.7
受注単価	▲ 6.2	0.0	8.0	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 20.0	▲ 8.3	▲ 8.0	▲ 20.0	▲ 16.0	▲ 12.5
営業利益	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 39.2	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 36.0	▲ 20.8	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1
見通し	6.3	▲ 5.0	4.0	▲ 8.3	8.7	0.0	▲ 12.5	▲ 8.0	▲ 16.7	▲ 4.0	▲ 12.0	8.0	0.0

<経営者の目・見方・etc>

- 建築工事**
 - ・3月下旬以降は、一般の受注が小口ながら増えている。新年度の公共工事にも期待する。
 - ・消費税の動向が気になる。
- 総合建設**
 - ・県の工事と国からの直轄工事の発注があり多少助かった、しかし4月以降は不透明である。
- 土木工事**
 - ・国の予算成立で、はずみがついて欲しい。また、公共工事の前倒しをしてほしい。
 - ・平成28年度は、更に厳しい年になる感じがする。
- 管工事**
 - ・今月に入り昨年より仕入先が増えたので、売上が増加した。今後も営業活動をしていきたいが、なかなか厳しいのが現状である。
- 鉄工**
 - ・昨年の同時期に比べて発注状況が鈍く、周りの同業者等も同様に感じている。しかし、短期的な見通しとしては、上向き傾向なので今後に期待する。
 - ・仕事は首都圏に集中している。年内の仕事は受注済みである。
 - ・見積書及び受注量が出てきている。今後、仕事量は増加する。
- 土木・水道施設
電気工事**
 - ・受注工事が全て終了した。
 - ・全体的に仕事がない。業界の大部分の事業所は家業なので持ちこたえているが、このままの状態が続くと大変厳しい状況になる。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
売上高	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0	0.0	8.3	▲ 40.0	35.0	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5
受注量	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 5.0	▲ 17.4	4.2	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3	▲ 12.5	▲ 19.1	▲ 4.8
受注単価	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 17.4	▲ 31.8	▲ 20.0	▲ 17.4	▲ 8.4	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 21.1	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 28.5
営業利益	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0	▲ 17.4	0.0	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5
見通し	▲ 20.0	5.0	8.7	0.0	▲ 5.0	▲ 17.4	▲ 4.2	▲ 10.0	5.0	▲ 15.8	4.2	14.3	▲ 33.3

<経営者の目・見方・e t c>

金属塗装

・円高、原油の多少の上昇、中国経済の景気減速等で親会社の景気が良くない為、受注量の減少となっている。

小型情報機器組立

・決算棚卸の為の調整と円高の動きで、先行きが不透明である。

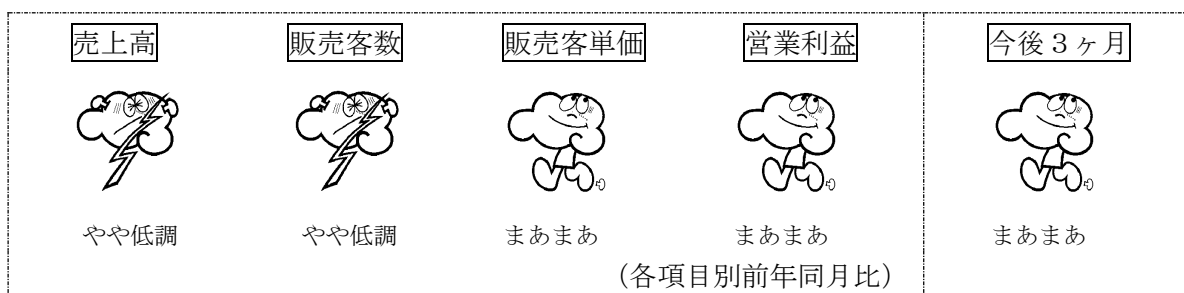
印刷

・紙の間屋2社が4月より合併した。

菓子

・特売の提案をしたが受注量が伸びないので、今後の販売方法について悩んで売

3. 卸売業



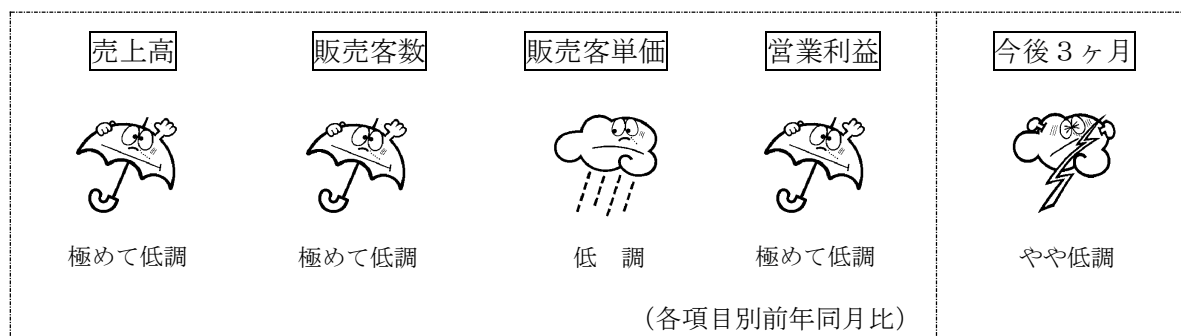
【項目別DIの推移】

	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
売上高	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7	▲ 11.8	5.9	▲ 6.6	▲ 18.7	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3
販売客数	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 13.3	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 35.7	▲ 6.3	▲ 6.7
販売客単価	0.0	18.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 6.6	▲ 25.0	▲ 21.5	▲ 42.9	0.0	0.0
営業利益	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8	▲ 11.8	17.6	0.0	0.0	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3
見通し	▲ 20.0	6.3	0.0	▲ 6.3	0.0	11.8	5.9	6.7	▲ 12.5	▲ 21.4	7.1	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

魚介類	・顧客数の減少のため、先行き不透明である。
金属製品	・仕事の受注が少ない状態が続いている。関東案件は一部のみで、地元案件は溜まっている。メインのオリンピック関連も、当初は今年の後半からという見込みだったが、実際に動くのは来年後半以降になる。
包装資材	・商店の閉店、廃業のために店舗を取り壊して駐車場にしているのが目立っている。
土産品	・相変わらず県内での販売は低迷している。特に松本地区は悪く、4月後半からの連休に期待している。
機械工具	・大、中企業は決算月とあって余り予算での発注があるが、今年に限ってはそうした動きがなく静か過ぎる気がする。景気は悪くなっている。
青果	・大きな雪害がなく順調であったが、九州の天候不順が相変わらず続いているので入荷は安定しなかった。果物も全体的に少なく売り場全体に不足感があった。ひな祭りの等のイベントも売り場を作るのに2月同様に苦慮した。
自転車	・電動自転車の売れ行きが好調である。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

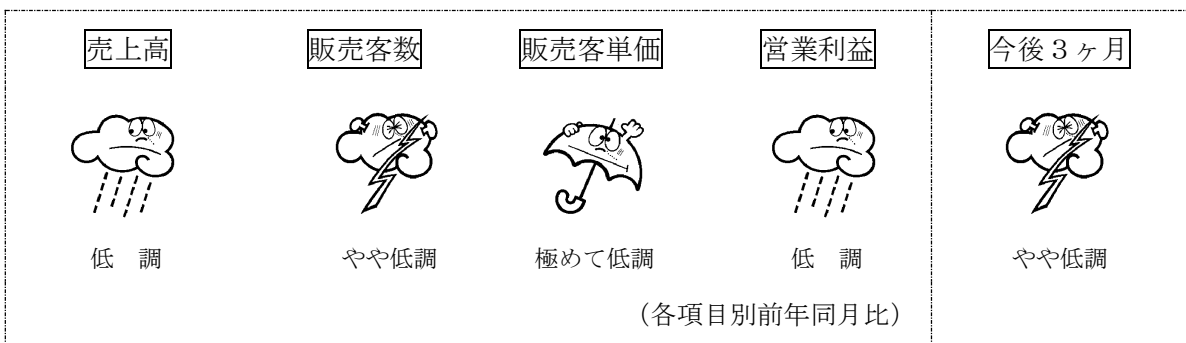
	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
売上高	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 15.1	▲ 18.1	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1
販売客数	▲ 40.0	▲ 12.1	▲ 5.7	▲ 24.3	▲ 10.3	▲ 30.6	▲ 27.2	▲ 18.2	▲ 11.2	▲ 9.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 24.2
販売客単価	▲ 13.3	▲ 6.0	▲ 2.9	▲ 16.2	▲ 12.8	▲ 22.2	▲ 12.1	▲ 27.2	▲ 22.2	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 37.5	▲ 9.1
営業利益	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5	▲ 19.4	▲ 24.2	▲ 42.4	▲ 30.6	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1
見通し	6.7	6.1	2.9	2.7	▲ 7.7	2.7	0.0	▲ 15.2	▲ 2.8	0.0	▲ 3.1	0.0	6.1

<経営者の目・見方・e t c>

菓子	・3月中旬から土・日を中心に観光客が出始めた。外国人(特に欧米系)の方が多い。日銀のマイナス金利政策により、景気の悪化はさげられない。来年の消費税の増税により日本全体が冷え込むものと感じられる。
化粧品	・インバウンドが目立った。夜桜会の夜の賑わいは、例年より良かった。
ショッピングセンター	・依然として消費マインドは厳しいものがあるが、時期に合わせて企画を実施する事で売上を維持している状況である。3月は入試などの関係で、中旬まで人出はなかった。また、気温が上昇してくるのは中旬以降のため、企画を下旬に集中させた。

陶磁器	・寒さが緩み花が咲くと人出が増えて、あらゆる活動が活発になる。 街なかイベントは秋まで目白押しなので今後に期待する。
印章	・寒暖の差が激しく、なかなか思う様な業績にならない。月末になって桜の開花が迫り、人出が期待できそうである。 ・定休日返上で営業したところ、普段より注文が多かった。外国人観光客が増えてきた。松本山雅のホームゲートへ来て下さる相手サポーターの市街地の徘徊が随分少なくなった。来月以降に期待したい。
書籍	・前月までと同様に来店客は少ない。デパートの信州物産展に1週間出店した宣伝効果で、新たな取引先も増えて売上増加となっている。
パン	・全体を見ると好調だが、先行きが不透明なので不安感がある。
ガラスサッシ	・貸屋のリフォームで、不動産関係の仕事が昨年より若干増加した。
生鮮食品	・暖かな日が続き人の出入りが多かったので、3月は客数、単価共に良かった。
石油製品販売	・電力自由化に伴い競争が激化している。
住宅機器	・動きが悪いままで変化なし。
観光物産	・旅行団体は食事のみでお土産の需要がない。国道を走っているバスの台数が少ない。
書籍・木のおもちゃ	・例年は入園、入学のこの月は、いつもの月より売上がアップするが、今年は良くなかった。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
売上高	8.3	▲8.4	6.7	▲7.1	▲12.5	▲11.1	0.0	7.2	▲28.6	▲6.2	▲6.2	▲38.5	▲20.0
販売客数	8.3	0.0	6.7	▲7.1	▲6.2	0.0	0.0	0.0	▲28.6	▲12.5	▲31.2	▲46.1	▲13.4
販売客単価	▲8.4	▲16.7	▲13.3	▲21.4	▲25.0	▲22.2	▲5.9	▲7.1	▲28.6	▲18.7	▲12.5	▲30.8	▲33.3
営業利益	0.0	▲16.7	▲6.7	▲7.1	▲31.2	▲11.1	▲11.8	0.0	▲28.6	▲25.0	▲31.2	▲46.2	▲20.0
見通し	16.7	16.7	▲6.6	14.3	12.5	▲22.2	5.9	0.0	▲7.2	▲25.0	6.2	15.4	▲6.6

<経営者の目・見方・etc>

寿司	・2月があまり良くなかったが、3月は良かった。中旬から下旬は人の動きが活発で週末は店内が満員でお断りする時もあった。暇な時もあるので来店客数が平均し
----	--

てくれるとありがたいと感じる。

・選挙の影響が少なからずあるが、例年より宴会需要が伸び悩む月だった。また、円高、原油安など仕入単価の値下げが期待される要因はあるが、これに反して仕入単価は全体的に上昇傾向にあり、今後のメニュー政策にはその点に留意したい。

・全般に来客数が伸びてこない。

中華料理

・3月9日の「松本山賊の日」に1枚500円で販売したが、チラシや広告の効果があり、大勢のお客さんが来店して好評だった。今後もより一層の山賊焼きの知名度アップの為に頑張りたい。春休みになると、一気に春らしくなり観光客が増加して忙しくなってきた。

創作料理

・客単価を上げる事が出来なくて、今後の経営方針に悩んでいる。

レストラン

・消費税の10%増税は少し不安である。大企業の景気は良好のようだが、一般的には良くなっていないと感じる。

そば

・世の中、明るい話題が無く、消費が意欲的でない感じがする。早く桜が咲くのを期待する。

料理

・送別会等のシーズン期間のため宴会はあったが、来客数は減少気味だった。


郷土料理

・中旬より人の流れが良くなり、僅かながら上昇の月となった。テレビで節約疲れが始まっていると報じられたので外食にも財布の紐が緩んでほしい。

仕出し料理

・年度末で仕出し弁当の注文が先月より増加したが、一食の販売単価が下がったため売上は伸びなかった。

6. サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヶ月
				
やや低調	やや低調	やや低調	やや低調	やや低調

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	27年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
売上高	5.0	14.7	0.0	▲ 10.6	10.0	▲ 20.4	2.2	13.1	▲ 9.5	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4
販売客数	▲ 2.5	12.2	2.1	▲ 14.9	4.0	▲ 25.0	0.0	8.7	▲ 9.5	2.1	▲ 23.1	▲ 2.3	▲ 6.8
販売客単価	▲ 2.5	4.9	0.0	▲ 4.2	▲ 2.0	▲ 18.2	6.8	8.7	▲ 4.7	4.3	▲ 23.0	0.0	▲ 2.2
営業利益	▲ 10.0	14.6	▲ 6.1	▲ 17.1	0.0	▲ 18.1	▲ 13.7	8.7	▲ 9.5	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7
見通し	0.0	2.5	▲ 2.0	0.0	10.0	9.1	6.9	2.2	0.0	0.0	2.6	0.0	▲ 2.3

<経営者の目・見方・e t c >

旅館	・団体客が入り始めた。
温泉旅館	・3月は例年通りの状態だった。 ・毎年3月は閑散期で観光客が少ないので修繕工事を行ったが、先月に引き続き売上は減少だった。今後の景気、テロ問題が心配だが、桜の開花、諏訪の御柱、真田丸等でお客様の動きに期待したい。
ホテル	・このところ好調だった宿泊者数が、若干減少した。選挙の影響で宴会が低調であった。 ・春休みに入ると個人の宿泊客は伸びるが、今年は例年より1週間ほど動きが遅かった。
介護サービス	・介護職員の確保が困難になっている事と保育士の低賃金が社会的問題となっている。
ソフトウェア	・自社の基幹系システムをクラウド化する動きが一般的になっている。しかし、製造業者のように協力工場が関連する生産業務では、各社がそれぞれIT習熟度によって、置き換えが困難な場合が多い。
マナー講師	・新入社員研修会はあるが、受注件数は前年同期と変わらない。
機械設計	・新年度の予定が、4月中旬になりそう。受注が決まれば先行きが明るい。
理容・美容	・全般的に必要な物以外は購入しない傾向があるので、消費が低迷していると感じている。 ・卒業、入学シーズンで、髪に時間とお金をかけて頂ける時期なので、PRをしていきたい。
写真	・卒業記念写真、家族写真の需要があった。
ペットサービス	・天候不順がお客様の来店に響いたので、売上高が前年を下回った。これから、春に向けて新メニューなどの提案をしていく。
マッサージ	・年度末の転勤等により、客数減少が気になる。
タクシー	・売上は、2月と同じ状況で伸びなかった。
自動車整備・板金塗装	・例年の3月の忙しさと違い本年は良くなかった。また、消費税増税前の駆け込み需要後、自動車の車検スパンの端境期に入り、陸運事務所の混雑も少なかったように感じる。これから、更に仕事量が減少するのではないかと心配である。
自動車整備	・3月はディーラの決算月なので、車検台数も年間をとおして繁盛期だった。